

平成27年度第5回仙北地域協議会会議録

平成27年12月15日

仙北地域協議会

平成27年度第5回仙北地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■支所長あいさつ	2
■会議録署名委員の指名	2
■協議	2
(1) 平成27年度地域枠予算について	2
(2) 大仙市総合計画案について	5
■その他	7
■閉会	8
■署名	8

平成27年度 第5回仙北地域協議会 会議録

■日 時：平成27年12月15日（火） 午後1時30分

■会 場：仙北支所 3階 第1会議室

■出席委員：14名

池田 キミ、伊藤 まり子、伊藤 良子、大釜 滝浩
大西 茂雄、後藤 孝子、今野 順子、齋藤 勇一
佐々木 誠孝、佐藤 美佐子、佐藤 隆造、中野 信一
原 隆新、吉田 利雄

■欠席委員：3名

大河 奈々子、佐々木 勝夫、須田 若子

■出席職員：7名

竹内 徳幸（仙北支所長）	藤嶋 勝広（市民サービス課長）
進藤 一好（農林建設課長）	加藤 実（仙北公民館長）
佐々木まゆみ（市民サービス課参事）	鈴木 一徳（総合政策課主任）
須田 康平（仙北公民館主任）	高山 知洋（地域活性化推進室主席主査）
草薨 友也（地域活性化推進室主査）	

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 支所長あいさつ
- 4 会議録署名委員の指名
- 5 協 議
 - （1）平成27年度地域枠予算について
 - （2）大仙市総合計画案について
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

（午後 1時30分 開会）

○吉田仙北地域協議会会長（以下「会長」と表記）

お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。今年は雪もなく非常に過ごしやすい日々が続いております。この穏やかな気候で生活できるということはこの上ない喜びだと感じているところでございます。皆様のご協力の中で先般、未来を語る会で農業を取り巻くことについて協議をしていただいて非常に有意義な発言もできました。農業関係の方も多くみえていた訳でございますが、これを地域の地場産業として活かせるか否かはそれぞれの立場の中で検討していただけるものだと私は感じたところでございます。積極的なご意見もございまして非常に熱心に協議されたなと思ったところでございました。今日も非常に限られた時間ではございますが、協議していただく案件がございますので一つよろしくお願ひしましてあいさつとさせていただきます。今日はご苦労さんでございます。

○竹内仙北支所長（以下「支所長」と表記）

委員の皆様には年末のお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。先月開催された未来を語る会、それから28日に開催されました地域業議会委員研修会には沢山の委員の皆様にご参加いただきましてありがとうございます。先ほど柵磨呂くんをご紹介させていただきましたが、未来を語る会でお披露目いたしまして、その翌日に開催された民俗芸能フェスティバルでもご紹介させていただきました。それから一週間後の東京で開催された首都圏ふるさと会にも出張いたしましてお披露目させていただいたところであります。これからも仙北地域のPR大使ということで様々なところで登場させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。今日の案件ですがこの柵磨呂くんの関連グッズと地域活性化イベントの審議をお願いしたいと思っておりますのでどうかよろしくお願ひいたします。それから大仙市の総合計画案についても総合政策課の鈴木主任からお越しいただいておりますので、そちらの方もどうかよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

○会長

議事に入る前に、会議録署名委員を指名させていただきたいと思ひます。佐藤隆造委員と中野信一委員に署名委員を務めていただくようお願ひいたします。よろしくお願ひします。それでは、さっそく議事に入ります。地域枠予算について説明願ひします。

○事務局（地域活性化推進室）

配布資料に基づき説明。

・実施類型Ⅰ型

№. 14 「大仙市仙北地域マスコットキャラクターPR事業」

事業目的：仙北地域を市内外へ広くPRするために製作された「柵磨呂くん」を用いたカレンダー等を作成し、地域への愛着や誇りを持つところを育むとともに、地域の魅力を外に発信するキャラクターとして認識、活用していただくきつ

かけをつくるもの。

申請団体：大仙市役所仙北支所地域活性化推進室

申請額：956,340円（印刷製本費、消耗品費）

○会長

ただいま、マスコットキャラクターのPR事業についての案件でございますが、皆さんから意見をいただきたいと思えます。一応、サンプルみたいなものありますか。

○事務局（地域活性化推進室）

サンプルを委員へ回覧。

○会長

今、検討してもらっておりますが、この事業についていかがでしょうか。公募した際に応募してくれた方へのお礼も兼ねてということで行政の方も考えてくれたみたいですが。皆様からご理解していただいたものとしてよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○会長

はい。ありがとうございました。

○中野信一委員

ちょっとすみません。応募者全員にカンバッチや下敷きを配布するということでしたが、小・中学生の応募者ならそれでもいいんだろうけど一般の応募者には手ぬぐいも一緒に配布したらどうかと思います。

○事務局（地域活性化推進室）

はい。一般応募者へはそのように対応したいと思います。

○会長

今、加えての要望がございましたが、この事業についてのご意見は閉じてよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○会長

はい。ありがとうございます。では、この提案どおり可決させていただくことにしたいと思います。次の案件について説明をお願いします。

○事務局（地域活性化推進室）

配布資料に基づき説明。

・実施類型Ⅲ型

№. 15「大仙市仙北地域活性化対策事業【健康づくりイベント】」

事業目的：仙北地域自治会連合会は、仙北地域の各自治会活動を活性化させることを目的としており、今年度は、主に地域住民の方々を対象にした健康づくりイベントを開催し、市民一人ひとりが自身の健康な体づくりを意識する機会を創出し、元気な地域を目指すもの。

申請団体：仙北地域自治会連合会

申請額：300,000円（補助金）

○会長

はい。ありがとうございました。これは、昨年度に続いての事業ということでございます。この件について皆さんからご意見いただきたいと思っております。

○原隆新委員

連合会さんでは、去年に引き続きということで企画していただいて非常にありがたいと思っております。冬場のレクリエーションということで子どもさん方と一緒にやれるというのが非常にいいなと思っておりますので是非お願いしたいと思っております。

○会長

はい。冬場の健康づくりに対しては非常にいいことなのでやっていただきたいといったお話でございますが、その他ご意見ございませんか。

○今野順子委員

仙北小唄ってあんまりわからないというか聞いたことがないので小さい子ども達に聞かせるのはいいと思います。小さい頃から聞かせてこういう歌があるんだなと知らせていくのはすごくいいことじゃないかなと思います。

○会長

よく周知できるような環境づくりをしてパンフレットの中にでも仙北小唄の歌詞を書いておくとかしておけば今の今野委員のお話のようなことも事前に解決できるのかなと思っておりますが、パンフレットに載せる余裕ありますか。

○事務局（地域活性化推進室）

はい。歌詞全体となると厳しいかもしれませんが、工夫してみます。当日参加された方

にはプログラムと仙北小唄の歌詞を印刷したものを配布したいと考えております。

○会長

今、今野委員が言われたような環境づくりをしていただければいいのかなと思いますので配慮をお願いします。その他ございませんか。

○齋藤勇一委員

柵磨呂くんの中に入っている人は市役所職員なもんですか。

○支所長

今日は職員が入っておりますが、先日、高梨小学校へ貸し出した時には、PTAの方が入ったようです。身長が170センチ程度の人でないと着れないもんですから。地域の行事に出て行く場合には職員で対応しますが、これからは貸し出しも考えておりますので貸し出したイベントで使用する際には、貸し出した団体の方から着てもらうことになると思います。

○会長

いかがでしょうか。この健康づくりイベントの件に関してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○会長

ありがとうございます。それでは、今回の地域枠予算については2案とも上程どおり可決させていただきました。ありがとうございます。それでは、次に大仙市の総合計画案についてご報告願います。

○総合政策課 鈴木主任

配布資料に基づき説明

○会長

はい、ありがとうございました。ただいま、第2次大仙市総合計画基本構想（素案）をご報告いただいたところでございます。この資料につきましては、皆様の方へ事前に送付してあったところでございますので、今説明いただいたこと以外にもご意見があれば伺いたいと思います。

○佐藤隆造委員

地域を見ていて人口減というのはこの後も予測しておられるようですし、防ぐことができないといえればそれまでなんですけれども、やっぱり地域に若い人が居ないということは

年々人口が減少していくと。私の年齢からみると若い人が居て、子どもが生まれて年寄りが居なくなっていくような循環型が社会としてふさわしいものだろうと思います。一番残念なのは働く場所がないってこともあるだろうけれども、自分の子ども達を学校に入れて帰ってこないというのが小さい集落ですけれどもずいぶんあります。それと別で、実家に住んでいて誘致工場で働いて小学生の子どもが3人もいていきいきしている家庭もあります。古い考え方もかもしれないけれども創造的な職業っていうのは100人いて100人に求めるっていうのはこれを解消する決め手にはならないような気がします。例えば大館なんかニプロを始め誘致工場が多くて市長が代わったけれどもその流れは止めないでくれって言ったのが非常に印象的で。働く場所があれば戻って来るんじゃないかなという視点が必要だと私は思っています。働く場所がなくて出会いの場を残っている若い者に求めてもという感じを私は持っています。非常に小さな集落ですが、このままだと家と若い人との繋がりがっていうのは非常に悲観的だと思っています。つまり、古いかもしれないけれども循環型の社会がいくらかあることによって地域が支えられていく。今回、防護服の会社が来たということは、どれだけ雇用を生むか分からないけれども。やっぱり働く場所があれば若い者が残るんじゃないかっていうのが捨てきれない一つの考えです。

○会長

はい、ありがとうございます。ここに若者が残るためには職場の確保が一番問題だとうという話してございます。まったくその通りだと思います。我々年配の人間にも悪いところがあって、自分で出来ないことを子どもに託して東京に行って大学に入ってください。そして、働く場所が無いから戻って来たって仕事はないよということなんで、その辺をどのように地域で補っていくかということだと思います。これは行政だけでは決して無理な話しですので、やはり地域住民の皆さんが知恵を出し合いながら進めていくべきではないかなと思います。先ほど佐藤委員からニプロの話がでましたが、今、あそこは3,000人の雇用をしているそうです。そしてタイに工場を持って行って5,000人向こうで雇用しているそうです。今、タイに行っている工場長やリーダーが全て大館の出身の方だそうです。5年か10年すると引き上げて全て現地で生産するということでしたので、ニプロという会社は大きくなるんでしょうけれども縮小するということはないのかなと感じてきました。ただ、海外行くのも大変なようでした。言葉の違いと宗教の違いに非常に苦慮しているということでした。この前、未来を語る会で熱く農業の話をしていただいたので若い人も年配の人もあの辺からなにか見出していただけのものではないかと。農業や食料に携る方々がきっかけにしてもらえればビジネスは成り立つのかなと私は思いました。佐藤委員がお話されたことは近々の課題です。それは先ほど説明されたとおりでございます。しかし、我々がどうにかできるかと言われれば、中々この委員の中だけでは無理だと思いますので、皆様の知恵を出し合いながら地域、集落の発展に寄与していただければと思います。

その他ございませんか。なければその他の方に入らせていただきますがよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○会長

はい、そのようにさせていただきます。何か役所の方からございませんか。

○支所長

特には無いようでございますけれども、この一年皆様には本当にありがとうございました。地域予算ですがまだまだ余裕があるようでございますので今年度残り少なくなってきましたが何か良い案がありましたら教えていただきたいと思いますし、我々も一生懸命考えて色んな団体と協力してやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○佐藤隆造委員

6月の協議会で皆様のご理解をいただきながら今日、配布させておりますが六郷御役屋御用日記を作らせていただきました。富樫泰時先生から礼状が届いておりますがこの地域の昔の基礎資料として非常に立派な仕事だというようなことを言われました。良かったなと思っております。大仙市も今、公文書館を造ってアーカイブズに非常に理解を示しております。ただし、子ども達に読んで聞かせるという訳にはいかないですけれども、じっくり将来にわたってこういう基礎資料が残されて伝えられるということはこの地域の財産とっていいんじゃないかと私は思っております。前も言いましたけれども8つの地域で町村史、町史を発行できなかったのは旧仙北町だけだと私は思っております。皆様にご理解をいただいてこういったものを将来に残せるっていうのは非常にありがたいことだと思っております。協議会の皆様には非常に感謝しております。ありがとうございます。

○会長

はい、ありがとうございました。安政まであるんですけれどもこの後もあるものですか。

○佐藤隆造委員

まだ少し残っております。

○会長

個人的にですが、途中で切ってしまうと、今年作ったものが無になってしまうと思ひます。仙北地域の史として残るようなものならば私はある程度完成したものにしておいた方が後々も有効に活用できるものになるのではないかなと思ひます。支所長いかがでしょうか。

○支所長

まったくその通りだと思います。やっぱり完結して一つのいいものが出来ると思います。ただし、1年度1回の申請ということですので、もし出来るのだとすれば来年度早々にでも申請していただければ私の方では異存ございませんので、あと皆さん方の承認があればということです。

○会長

それでこの前、大仙市の本庁での会議の中で継続事業について捉え方や考え方に温度差があるなど感じてきました。物として残すものがあつたならば私はやった方がいいと話してきました。そして、意義ある継続事業については継続して良いとご理解いただいたものと思っておりますので、やはり完結してもらって財産として残してもらった方がいいと思います。

今日の予定された案件については終わったところでございます。委員の皆様から何かあれば承りたいと思いますがいかがでしょうか。

なければ閉じてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○会長

はい。ご協力ありがとうございました。ご苦労さんでございます。

(午後 2時40分 閉会)

仙北地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

佐藤隆造

中野信一
